

中 日 ニ ュ ー ス

シ ネ ス コ 版

道新 16132
高新 16217
新愛媛 1644
甲口新 1648

梅の野郎 - 私慢 1130R
下帰 1130R

(本編) デラックス銀行誕生 (21巻)
1130R

本編同V

No. 382

36. 5. 12

タイトー - 広島球場 70R (本編トフへ追加)

一、多度の上げ馬神事

— 三 重

五月五日の子供の日に、三重県多度神社では、古式豊かな上げ馬神事が行なわれました。このお祭は、八〇年前、郷土の武士たちが、武芸上達を祈願して、馬を奉納したのが始まりと言われます。まず氏子のなからみくじで選ばれた六人の少年騎手が陣笠神姿で三メートルあまりの絶壁を駆け上ります。上り切るか、すべり落ちるか、まさに、往時の精悍な武士の姿をしのばせます。端午の節句にちなんで、今に伝わる勇壮な馬上絵巻でした。

一、デラックスな銀行誕生

— 名 古 屋

名古屋市内の繁華街にこのほどデラックスな銀行がお目見えしました。お客第一主義をモットーに、店内も明るく、親しみやすい設計。エスカレーターで案内される二階の貸付部門は、お客さんが気軽に相談できるようになっています。また、機械化に重点を置き、銀行では、はじめての電子計算組織をそなえています。変わったところでは、貨幣の歴史を展示した部屋、音響効果満点のホールなど、御自慢の設備で、早くも街の話題をさらっています。

日本の群像

一、私設応援団

今や世をあげての野球狂時代。

私設応援団を中心にした野次合戦も、ダイヤモンドのゲーム以上に激しさを加えています。開幕早々日連敗、最下位に低迷する大洋の応援団長は池杉さん。その落胆ぶりも監督の三原さん以上です。なんとかして勝たせようというので、まず、応援旗を新調オイナリさんに供えて家族全員で必勝のお祈りまでしました。商売は市電の運転手。八年もの間熱心な応援をつづけて来たので、そのまらがいぶりも公認となり、年休をゲームにあわせてとり、必ず試合には顔を出します。

こうした熱烈なファンのグループが無料奉仕で選手たちの激励を続けています。巨人の団長関谷さんは年間五十万もの私財を投げだして応援旗をふりつづければ、中日ファンの河本さんは、お坊さんのファンを訪ねて仏さまに必勝の祈願をしてもらいました。その足で選手を訪れた河本さんは、敵のチーム名入りのカステラを持参。これにくって敵をのめ!! と大変な声援。選手の方が目をパチクリさせていました。

広島は町ぐるみが熱烈なファン。広島カープが地元入りするとスタンドはいつも超満員で大声援。熱烈な応援がみのもって今年は何々の強豪ぶりをみせています。こうして応援団の人々は、一文にもならない応援人生をおくっているのです。

668R

420R

110R

78R